

グループ名	ユニット名等	科 目 名	担当教員名	対象学年次	学 期
自己発見	2 単位 人間を知る	環境と人間	高野庸	2 年次	秋

授業のキーワード	自然環境, 生物としての人間, 環境問題
授業の概要・目的	統一的な自然像に則った物質・エネルギー観に基づき, 宇宙, 地球, 生物が創る環境と人間生活との関わりを明らかにし, 生物としての人間という視点から, 日常生活をどう改めたら環境問題の改善に繋がるかを学習する。
履修のアドバイス・前提科目等	最も基本的なことから始めるので, 特別の予備知識を要しない。理系科目に苦手意識をもつ人の受講を望む。

### 授 業 展 開

	テ マ	内 容		テ マ	内 容
第 1 講	はじめに	自然環境への影響の視点から, 私達を取り巻く状況とその問題点について平易に解説する。	第 9 講	生物としての 人間 (2)	人体の物質的な創られ方の特徴を整理し, 生活の基盤の物質的な側面を明確にする。
第 2 講	学習法の転換	教科毎にバラバラに得てきた知識を役立てるために学習法の転換が必須であることを説く。	第 10 講	生物としての 人間 (3)	生物における物質・エネルギー循環の視点から, 人間生活の位置づけを明確にする。
第 3 講	現代の自然像	学習法の転換には, 現代の自然像に則って, この世界を捉え直す必要があることを説く。	第 11 講	科学技術とそ のリスク	主要な科学技術のリスクを整理し, その発生のメカニズムを自然の法則に則って整理する。
第 4 講	宇宙環境	宇宙環境が地球に及ぼす影響を整理し, それから人間が受けている恩恵について解説する。	第 12 講	環境問題を見 る視点	複雑に問題が交錯する環境問題に関する, 俗説に惑わされなくするための視点を整理する。
第 5 講	地球環境	生物の参画により創られた部分に留意しながら, 地球環境の創られ方について解説する。	第 13 講	日常生活と環 境問題	日常生活をどのように改めたら環境問題の解決に繋がるかを自然の法則に則って整理する。
第 6 講	生物環境	生物環境の成り立ちについて及び生態系と人間生活の基盤との関わりについて解説する。	第 14 講	ま と め	授業のまとめを行いながら, 定期試験に向けて, どのような学習をして欲しいか吐露する。
第 7 講	社会環境	高等動物の社会性の視点から, 社会的動物としての人間破壊を食い止める必要性を説く。	第 15 講	定期試験	ノート・資料持ち込み可で, 答案提出後, 解説を読み答案を自己分析した結果を提出する。
第 8 講	生物としての 人間 (1)	生物進化を概観し, その視点から地球及び生物界での人間の位置づけを明確にする。		評 價 方 法	授業に関する質疑・要望・感想等を記した毎回の授業後の提出物 40 %と定期試験 60 %

備 考 (関連する資格・試験等)			
使用する教科書 (必ず購入してください)	参考文献		
高野庸著「自然のしくみと環境—理科を見直す本—」(開成出版) 2008 年	樽谷修編「地球環境科学」(朝倉書店)		